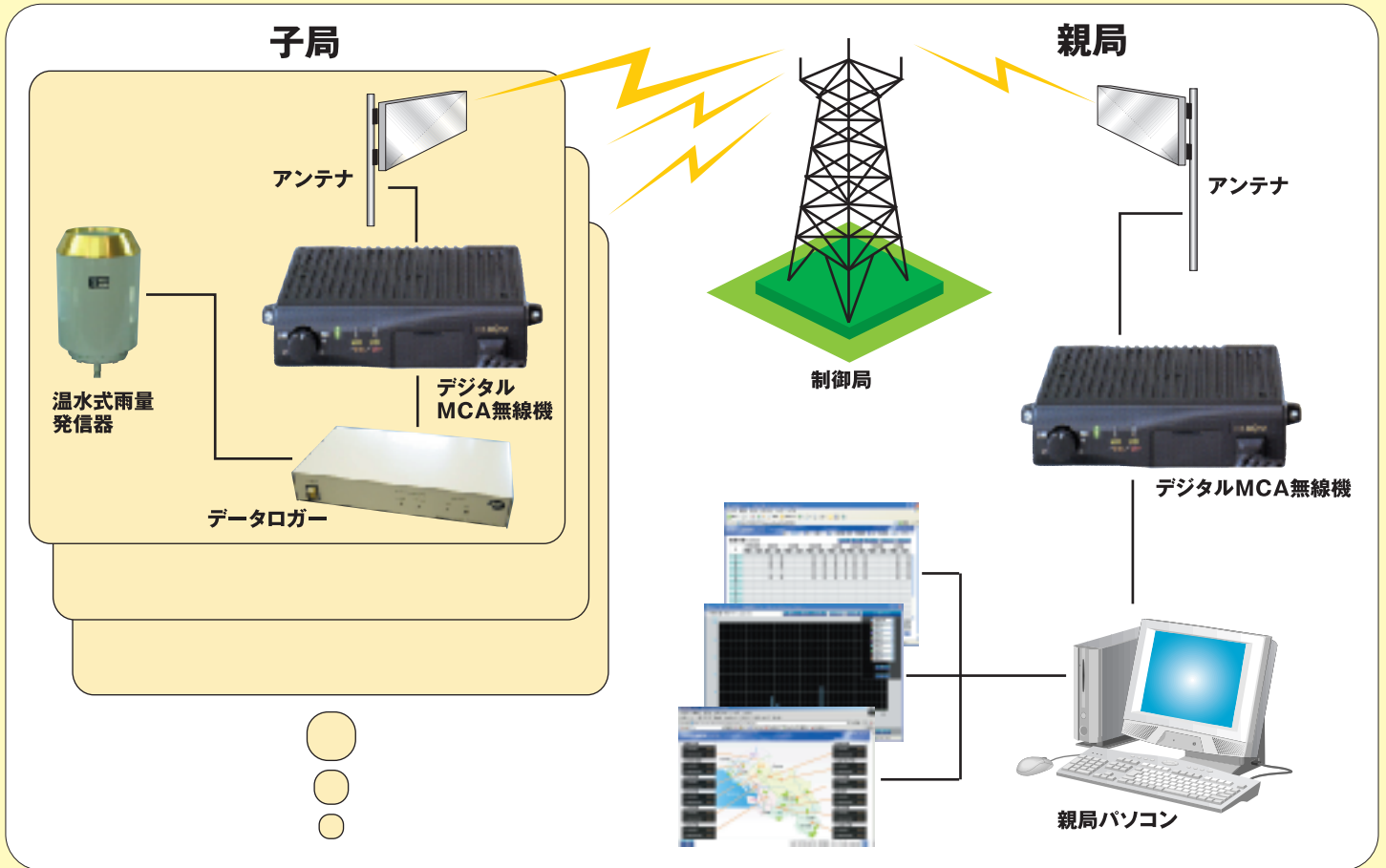


デジタルMCA 雨量テレメータ

800MHz帯 デジタルMCA無線回線網を利用し
安定した雨量観測を実現しました。

10分毎に、測定地点(最大30カ所)の雨量データが収集できます。
回線使用料金は有線回線の1/2~1/10程度です。



特 徴

1. 親局では転倒ます型雨量計の測定データをデジタルMCA無線回線で降雨時のみ10分毎に通信できます。
2. 降雨時に、子局の雨量パルスデータにより自動起動し、親局に降雨情報の信号を自動発報します。
3. 観測データと通信履歴を自動で3ヶ月間記憶します。
4. 1日1回の子局ライブ確認通信で、子局の動作状態を遠隔チェックするとともに、子局ロガーの時刻を完全同期補正します。
5. 各種警報設定ができます。(10分移動積算値・1時間移動積算値・実行雨量・3時間積算・24時間積算など)

オプション

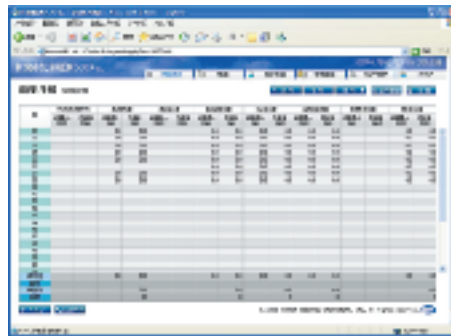
1. 親局側のPC (UNIX機) にメール通報機能・音声通報機能などを付加できます。
2. 弊社よりNTT加入回線・インターネット網にてリモートメンテナンスによる異常動作監視が可能です。
3. 太陽電池・バッテリー・間欠タイマーソフトを増設する事により、雨量測定局を無電源化することが可能です。
4. 降雨量が警報値に達した場合には、あらかじめ登録されている携帯電話などのアドレス(最大20件)にメールにて自動送信することができます。

※通信費は測定箇所数、測定間隔、降雨日数・時間により変わりますので、お問い合わせ下さい。

雨量テレメータ 親局パソコン画面例



地図画面



帳票画面



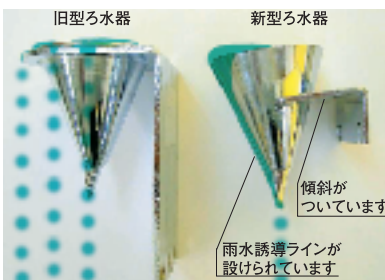
グラフ

より確かな雨量観測をサポートします。

気象庁との共同特許

目詰まり安心ろ水器

転倒ます型雨量計には、転倒ますに直接ゴミが入らないよう「ろ水器」が組み込まれていますが、この「ろ水器」のパイプが、砂埃や昆虫の侵入などで目詰まりしてしまった場合、雨が観測されない、雨量が少ないといった不具合が出てしまいます。これを解消するため、弊社と気象庁様で共同開発したものが「目詰まり安心ろ水器」です。目詰まりし、ろ水器から雨水が溢れても正確に計れるよう、傾斜及び雨水導水ラインを設けてあり、台風や集中豪雨があっても安心して観測ができます。



雪を溶かして降水量観測が可能

温水式雨量計

寒冷地などで、雪をヒーターで融かして降水量として計測する場合、従来のパイプヒーター式の雨雪量計を使用すると、ヒーター熱が強すぎて雪が結晶状態で蒸発してしまい、実際の降水量より少ない値となってしまいます。この温水式雨量計は不凍液が入っており、この不凍液をヒーターで暖めて融雪することで、蒸発を最小限に抑えます。気象庁アメダスの降水・降雪の標準観測機器として採用されております。



降り始めの雨を確実に検知

感雨雪計発信器

転倒ます型雨量計は、ある程度の雨が降ってから初めて1転倒し降雨を観測しますが、弊社が製作します感雨雪計発信器を搭載すれば、降り始めから詳細な降雨状況を測定することが可能となります。



より正確な雨量観測に

0.1mm雨量計発信器

0.1mm計は従来型の転倒ます0.5mm計や1.0mm計より受水口径を大きくし、微量の雨量から測定できる仕様になっています。通常の雨量計に比べ分解能が高く、降雨状況をより詳細に測定することが可能で、降り始め、降り終わりの検出に有効です。



株式会社 **日本エレクトリック・インスルメント**

〒152-8508 東京都目黒区中央町1-5-12
TEL.03 (5768) 8251 (代) FAX.03 (5768) 8261
<http://www.nei.co.jp>

エムシーアクセス・サポート株式会社

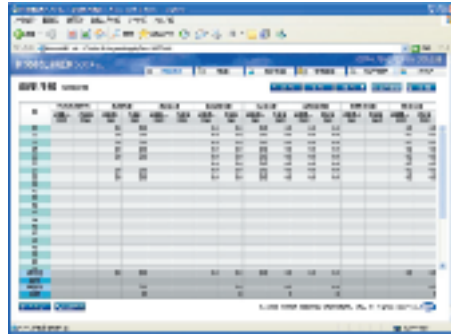
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-8-4 BABAビル8F
TEL.03-5302-0625 FAX.03-5302-0626
<http://www.mcaccess.co.jp>

お問い合わせは

雨量テレメータ 親局パソコン画面例



地図画面



帳票画面



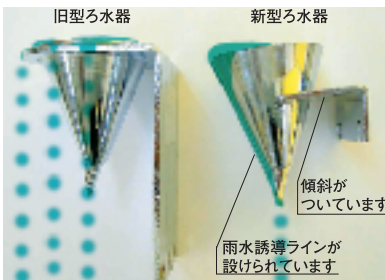
グラフ

より確かな雨量観測をサポートします。

気象庁との共同特許

目詰まり安心ろ水器

転倒ます型雨量計には、転倒ますに直接ゴミが入らないよう「ろ水器」が組み込まれていますが、この「ろ水器」のパイプが、砂埃や昆虫の侵入などで目詰まりしてしまった場合、雨が観測されない、雨量が少ないといった不具合が出てしまいます。これを解消するため、弊社と気象庁様で共同開発したものが「目詰まり安心ろ水器」です。目詰まりし、ろ水器から雨水が溢れても正確に計れるよう、傾斜及び雨水導水ラインを設けてあり、台風や集中豪雨があっても安心して観測ができます。



雪を溶かして降水量観測が可能

温水式雨量計

寒冷地などで、雪をヒーターで融かして降水量として計測する場合、従来のパイプヒーター式の雨雪量計を使用すると、ヒーター熱が強すぎて雪が結晶状態で蒸発してしまい、実際の降水量より少ない値となってしまいます。この温水式雨量計は不凍液が入っており、この不凍液をヒーターで暖めて融雪することで、蒸発を最小限に抑えます。気象庁アメダスの降水・降雪の標準観測機器として採用されております。



降り始めの雨を確実に検知

感雨雪計発信器

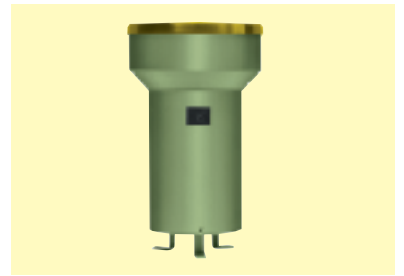
転倒ます型雨量計は、ある程度の雨が降ってから初めて1転倒し降雨を観測しますが、弊社が製作します感雨雪計発信器を搭載すれば、降り始めから詳細な降雨状況を測定することが可能となります。



より正確な雨量観測に

0.1mm雨量計発信器

0.1mm計は従来型の転倒ます0.5mm計や1.0mm計より受水口径を大きくし、微量の雨量から測定できる仕様になっています。通常の雨量計に比べ分解能が高く、降雨状況をより詳細に測定することが可能で、降り始め、降り終わりの検出に有効です。



株式会社 **日本エレクトリック・インスルメント**

〒152-8508 東京都目黒区中央町1-5-12
TEL.03 (5768) 8251 (代) FAX.03 (5768) 8261
<http://www.nei.co.jp>

エムシーアクセス・サポート株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-8-4 BABAビル8F
TEL.03-5302-0625 FAX.03-5302-0626
<http://www.mcaccess.co.jp>

お問い合わせは